

算数科授業研究の視点

授業研究の視点として、4つの場面における指導の工夫をしていく。

《課題把握の場面》・・・『考えたい』

- ・問題を条件不足にしたり、条件過剰にしたりするなど問題を工夫する。【問題の工夫】
- ・図形や数値を吟味する。【図形や数値の吟味】
- ・挿絵やペープサートを使ってお話しづくりをする。【問題提示の工夫・活動の工夫】
- ・動作化する。【活動の工夫】
- ・分かることは何か、分からないことは何か、どこが難しいのか、どんな数や形なら
できるのかなどをはっきりさせたり、問題場面をブロックや線分図、関係図などに
移しかえながら考える活動をしたりして、子どもが解決のための活動の見通しがも
てたところで本時の課題をきめる。【めあてをもたせるための活動の工夫】

《自力解決の場面》・・・『考えたい』

- ・お話をしながらブロックを動かす、数え棒やカードを並べる、アレイ図や線分図、
関係図を使って考える、実物模型などを操作、観察しながら考えるなど、活動を工
夫する。※課題把握場面で仕込んでおく【活動の工夫】
- ・調べて分かった途中経過をペアやグループで情報交換する。【場の工夫】

《考えの交流場面》・・・『伝えたい』

- ・子どもが活動に使った道具と同じものを準備しておく。【活動の工夫】
- ・解決方法は一つ一つ取り上げ、どんな既習事項をどのように使ったかを繰り返し説
明させるようにする。【説明のさせ方の工夫】
- ・説明の際には、図と式を線で結びつけるなど、視覚を通して説明させるようにする。
【説明のさせ方の工夫】
- ・考えが全体に分かり始めたところでその考えを10字前後の短い言葉で考える活動
にする。【活動の工夫】
- ・多様な考えが出る場合には、「どの考えを使うか。」などと問いかけ、それぞれの解
決方法を見直す場を設ける。【場の工夫】
- ・考えが一つしか出ない場合には、教師から意図的に回りくどい考えを提示し、考え
のよさを確かめる。【場の工夫】

《確かめ・まとめの場面》・・・『考えたい』『伝えたい』

- ・よりよい考えが分かったところで、その考えのよさを確かめる問題をする。
【場の工夫】
- ・分かったことをペアで伝え合う活動にする。【活動の工夫】
- ・考えを比べやすいように(見直しやすいように)板書を工夫する。【板書の工夫】
- ・「中心問題と確かめの問題から分かったことは何か。」を板書で振り返りながら問い
かけ、自分の言葉でまとめる活動にする。また、「どんな既習事項をどのように使っ
たか。」などの既習事項の有用性の面、その考えは「簡単か(簡潔性)」「分かりやす
いか(明瞭性)」「いつでも使えるか(一般性)」などの数理的処理のよさの面からもま
とめさせるようにする。【場の工夫】